

誰ひとり取り残されない防災

能登半島地震では、家屋の崩壊、停電や断水が続き、多くの人が困難に直面した。とりわけ被災地の中能登町には約200人の外国人住民が暮らしており、災害時における課題を実感したため、外国人住民への支援体制を考え直す必要があると思った。

昨年、国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットの次世代リーダー育成プログラムに参加し、探究活動の一環として能登地方に住む外国人33人を対象に防災に関するアンケートを行った。その結果、言語と文化・習慣という2つの主な



実際に小松KIAで行われた多言語での避難訓練

課題が見えてきた。言語の視点からは、母国語での情報が少ないことから避難情報が得られないことが、文化や習慣の視点からは、宗教上食べられない食べ物が避難所で支給されたり、礼拝自体やそのための場所や時間が理解・確保されにくいことが明らかになった。異なる文化で生きてきた外国人住民との相互理解の必要性を実感した。

そこで、以下の解決策を提案する。

1. 情報弱者を出さないための多言語防災アプリの開発
2. 防災士資格の取得サポートを通じた外国人防災リーダーの育成
3. 合同防災訓練の実施

通訳機能の付いた防災アプリや災害時に母国語で情報を伝えられる外国人防災リーダーを増やすことで、言語の壁に立ち向かう。また、合同防災訓練では、通常の訓練に加え、避難体験ゲームと避難所シミュレーションゲームを実施する。避難所シ



避難体験ゲーム

ミュレーションゲームでは、日本人の住民に避難所のまとめ役を担ってもらい、外国人住民に避難所のルールを伝える場面で、日本語だけでなく多言語で書かれたボードや簡単なイラストを使ってコミュニケーションを取る練習や避難所の運営をシミュレーションしてもらう。このような多言語での案内や避難所運営の訓練を通して、災害時に必要なコミュニケーションを体験できるようにすることで、互いに助け合う「共助」の心を育てる場作りをする。

これらの取組を通して、中能登町が「誰一人取り残されない防災」を実現するまちになっていくことを願っている。

政岡 クララ

石川県羽咋市出身、2026年3月鹿西高等学校卒業。石川県、金沢市、国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット(UNU-IAS OUIK)が実施した「石川金沢から世界を変える、次世代のリーダー育成プログラム 2025 研修コース」に参加。

GEOC/EPOからのお知らせ

来年度の「つな環」発行予定について

2026年はいよいよGEOC30周年の年になります。

毎年2回発行している機関誌「つな環」ですが、来年度は「GEOC30周年特別記念号」として1号のみの発行とし、時期は、2027年2月頃を予定しております。

また、GEOC30周年を記念したイベントのご案内や各種情報発信はGEOCのWebサイト上に掲載いたしますので、こちらも合わせてご確認ください。

つな環編集部

星野 智子、島田 幸子、江口 健介、鈴木 良壽、比留間 美帆、姜 そんう、今井 麻希子(順不同)

つな環

検索

「つな環」はインターネットからもご覧いただけます。
<http://www.geoc.jp/information/tsunakan>